

令和元年度第1回京都市政策評価委員会（令和元年12月16日開催）摘録

事務局 仲筋課長	<p>ただいまから令和元年度第1回京都市政策評価委員会を開催いたします。私、京都市役所の仲筋と申します。よろしくお願いいたします。それでは、開催に当たりまして、計画調整担当部長の平野の方から御挨拶申し上げます。</p>
事務局 平野部長	<p>皆様おはようございます。計画調整担当部長を務めております平野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様におかれましては、年末の御多忙な折に出席賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本市では全国的に比較的早い段階で政策評価制度を導入しており、15年以上制度を運用しております。普段から政策評価委員の皆様より制度の点検をいただき、改善に向けて様々な御意見をいただいております。その結果、全国的にも非常に高い評価をいただいております。他都市等からも度々視察がございまして、先日は中国からもお越しいただきました。これもひとえに委員会の皆様の御議論の賜物と考えております。</p> <p>さて、本委員会においては、任期は2年間となっており、本年度は改選期にあたります。新たに3名の学識委員と2名の市民公募委員に御参加いただくことになり、引き続き委員を勤めていただく委員の皆様と合わせた7名で新たな委員会の発足となります。本日、深川委員が所用により御欠席ということでございますが、引き続きよろしくお願いいたしますと考えております。</p> <p>それぞれ皆様の御専門の立場、あるいは市民の目線からという面で、様々な観点で御意見いただければと考えておりますので、忌憚のない御意見を何卒よろしくお願いいたします。</p> <p>政策評価の対象となっております本市の京都市基本計画については、2011年度から2020年度の10年間の計画で、来年度までの計画でございます。現在、新たな計画を作る作業に入っております。本年8月に審議会を立ち上げたところでございます。このように評価の対象となる計画も変わってまいりますので、政策評価につきましても、この改定に合わせて、客観指標や市民生活実感調査について見直しを行っていく必要があると考えております。委員会としましても、大変大きな節目の年であると考えており、昨年度の委員会で御指摘いただいております、市民にとって分かりやすいものになっているか、担当部署による政策企画・立案に役立っているか、そして持続可能で効率的な運用が可能かといった視点で改善を進める必要があると考えております。</p>

<p>事務局 仲筋課長</p>	<p>委員の皆様におかれましては、例年の点検・改善の御意見に加えまして、制度自体の改善につきましても御意見をいただくことになろうかと思えます。大変御負担をかけることとなりますが、御協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。</p> <p>簡単ではございますが、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは、初めての委員の方もいらっしゃると思いますので、できれば一言ずつお名前と自己紹介をいただければと思います。資料1に委員名簿を付けております。五十音順となっておりますので、恐縮ですが、赤川委員からお願いいたします。</p>
<p>赤川委員</p>	<p>公認会計士の赤川京子と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。3期目ということで、半年ぐらい前の委員会で良い会だったとお別れたところでしたので、またお会いするのが恥ずかしかったんですが、京都市民として参加できる非常に有意義な会だと思っております。また2年間引き続きよろしくお願いいいたします。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>京都橘大学現代ビジネス学部3回生の伊藤可奈と申します。よろしくお願いいいたします。大学では、公共政策について学んでおります。昨年事務事業評価サポーターに参加させていただいていて面白いなど興味を持ったので今回応募させていただきました。2年間よろしくお願いいいたします。</p>
<p>掛谷委員</p>	<p>京都女子大学の掛谷純子と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。私は地方自治体の管理会計を研究しております。その中で評価等にも興味があり、このような委員に就任させていただいたことを嬉しく思っております。また今後とも皆様には、御迷惑をおかけする事があるかもしれませんが、御指導の程どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>京都大学の佐野と申します。私も2期目ですが、ざっくばらんに気楽に話が出来る委員会だと思います。京都市が実際何をしているのかについて、普通に生活していると個別のことしか気にならないわけですが、このような場所に出てくると全体のことがよくわかりますし、京都市役所の事や一般市民の事、他の先生がどのように思っておられるかなど、素直に話が出来るという意味で良い場だと思っています。今後ともよろしくお願いいいたします。</p>

白井委員	<p>白井皓大と申します。最近起業して、経営コンサルティングをしながら塾を運営しようと思っ準備をしています。これまでも他の委員会で市民公募委員を務めたことがあり、自分の勉強にもなるし、自分の意見が行政に反映されることは嬉しいし、楽しいことだと思うので、この委員会も頑張っていきたいと思っています。大学院の時にまちづくり支援を行政の観点から見る研究をしており、関係がありそうなので、そういう視点からも楽しみにしています。よろしくお願いいたします。</p>
中井委員	<p>京都産業大学の中井でございます。政党の政治過程論で主に政党政治等について研究しております。京都市の委員では、事務事業評価委員を以前やっております、事務事業評価サポーターの発表を聞かせていただいたり、私のゼミも事務事業評価サポーターで勉強させていただいたりしました。こういう活動に参加させいただくことで、私も勉強になるし、学生さんたちも非常に勉強になっております。京都市さんもこういうことで懐が広く、受け入れて下さっている、そういう意味でも非常に先進的なまちだと思いますし、評価についても、先進的な取組をされていると日々感じております。今回も勉強する機会をいただきまして感謝しております。どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局 仲筋課長	<p>ありがとうございました。なお、花園大学社会福祉学部の深川光耀さんにも委員をお願いしておりますが、本日は所用で欠席されております。</p> <p>事務局は、平野、仲筋のほかに、係長の右近、担当の谷口が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>さっそくではございますが、議題1、正副委員長の選任から入りたいと思います。資料2を御覧ください。こちらは京都市の政策評価委員会の設置要綱でございます。要綱の第5条第2項におきまして、委員長は委員の互選により定め、副委員長は委員長が指名することとなっております。</p> <p>事務局としましては、これまで2期にわたり委員をお務めいただき、政治理論、公共政策学を御専門とされ、次期基本計画策定に向けたヒアリングにも御協力いただいております、佐野委員に御就任願えないかと考えております。皆様の方から、御異議等ございませんでしょうか。</p>
委員一同 事務局 仲筋課長	<p>(異議なし)</p> <p>御異議等無いようですので、佐野委員をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。それでは、佐野委員、委員長席に移動をお願いいたします。</p>

	<p>続きまして副委員長でございますが、副委員長は委員長に御指名いただくことになっておりますので、佐野委員長にお願いしたいと存じます。</p>
佐野委員長	<p>それでは私の方から指名させていただくということで、事務事業評価委員等務めておられた中井先生にお願いしたいと思っておりますが、中井先生いかがでしょうか。</p>
中井委員	<p>初めてで勉強するところからですが、よろしく申し上げます。</p>
事務局 仲筋課長	<p>副委員長席に御移動をお願いします。 それでは佐野委員長に一言御挨拶いただき、以後の司会をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
佐野委員長	<p>委員長を仰せつかることになり、あまり慣れていない仕事ですので最初はあまりうまく進められないかもしれませんが、委員の皆様と事務局の助けを借りて進めていきたいと思っております。今日も2時間ということですし、本年度としてはおそらくもう1回開催するかと思います。そういう意味では少し御負担を掛けすることになるかと思いますが、よろしく御協力の程お願いいたします。</p> <p>先ほど部長の方からもお話がありましたが、この京都市の政策評価の仕組みは、私も全容を把握するまでしばらく時間がかかるぐらいとても精緻にできているので、そういう意味ではとてもよく出来ているのですが、その分、複雑になっており、知らない人からすれば少し難しくなっています。</p> <p>たくさん事務事業をいくつか束ねて評価することなので、全体としてうまく整合的なものにしようと思うと、どうしても色々なルールを付けたり、条件を付けたりして複雑なものにならざるを得ないという面があります。</p> <p>京都市の基本計画の方でもおそらく議論があったと思いますが、色々な指標があり、その指標を評価するということで、全体像を把握すること自体がやや大変な面があります。それ自体はもちろん一定の合理性があって仕方がない面もあるのですが、その分市民からすれば、この分厚い資料を見るというのはなかなか難しいですし、ここで言われている評価が一体どういうものなのかも、すぐには伝わりにくい部分もあるかと思ひます。</p> <p>それから京都市役所の中においても、もちろん政策評価を使っているわけですが、せつかく大変な労力を掛けて作っているわけで</p>

	<p>すので、できるだけ京都市役所の中でも使ってもらえるように意識できたらと思っています。というようなことを私自身は思っているのですが、委員の皆様と事務局とこれから少し議論をしながらまた考えていければと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局 仲筋課長	<p>ありがとうございます。それでは以後の議事進行は佐野委員長に進行いただきます。佐野委員長よろしくお願いいたします。</p>
佐野委員長	<p>それでは議題に従って進めていきたいと思えます。2つ目の令和元年度の政策評価の流れということで事務局の方からお願いいたします。</p>
事務局 仲筋課長	<p>－事務局より議題2「令和元年度政策評価の流れ」（資料4）について説明－</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明につきまして、御意見や御質問があればお願いします。</p>
白井委員	<p>些細なことなのですが、条例ではこの委員会の人数15人以下と書いてありますが、要綱では7人以内と書いてあります。なぜ人数が異なっているかということと、委員会によって市民公募委員が1人だったり2人だったりすることがあると思いますが、それはどのように決まっているのでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>条例の第11条に、政策・施策の評価並びに事務事業の評価について審議する委員会を置くとありまして、この委員会以外にも事務事業評価委員会というものがあります。委員会ごとに人数を定めて、委員会の性質等に合うような形で15名以内で組織するという事になっております。政策評価委員会を設置したときに、要綱を定める中で、7名程度が最適であろうと判断した次第です。公共政策や政策評価等の専門家など、委員バランスを取りつつ、市民へのアンケート調査で市民の意見も集めることになることから、市民公募委員にも入っていただいております。構成バランスからするとこの評価委員会では市民公募委員が2名であり、比較的多めになっています。</p> <p>市民公募委員の人数ですが、審議会委員が20名程度という方針が京都市で定められているのに対し、その内1名か2名程度は市民公募委員とするよう市民参加推進条例に基づく運用の中で示されています。ただ、それぞれの委員会の専門性等により市民公募委員が1名なのか2名なのかは異なっており、例えば基本計画の審議会では色々な分野の専門</p>

佐野委員長	<p>家が入らなければならないため、バランス的には市民公募委員は1名で運用しています。市民公募委員を入れなければならないと条例で縛りつつ、バランスについては議題等によって弾力的に運用しているという形になっています。</p> <p>ありがとうございます。確かに色々なメンバーの選び方があると思いますが、今後例えばもう少し市民公募委員を増やしても良いのではないかとか、委員数そのものを増やすとかという議論ももちろんあり得るかと思しますので、また今後そういう機会があれば議論していけたらと思っています。そのほかいかがでしょうか。</p>
掛谷委員	<p>資料3の条例第7条の2項に、評価の結果に基づき、企画立案、予算編成等において必要な措置を講じると言うように書かれておりますが、この政策評価については予算編成にどれぐらい活用されているものなのでしょうか。多分、事務事業評価の方が予算編成には活用されており、政策評価は基本計画に活用されているのかなと思うのですが、予算編成に関してはどれぐらいか教えていただければと思います。</p>
事務局 仲筋課長	<p>政策評価の結果を受けて、定量的にこれだけの事務事業の予算に反映されているということはなかなか言いにくいというのが実情です。予算要求のレベルが、事務事業もしくは事務事業よりも細かいレベルになるためです。どちらかという、政策評価結果で大きな流れ、大きな状態を9月市会に提示して、それを踏まえて予算要求していくという流れになります。この9月市会は非常に重要で、決算の議会になります。決算とともに政策評価の結果を議会に提示したうえで、大まかな方向性が間違っていなかったかどうか、もしくは政策の方向性の転換が必要なのか、そういった議論の呼び水になります。それらを踏まえて、9月から11月頃に予算編成をしていくといった流れになりますので、間接的な反映の仕方になるかなと思います。</p>
掛谷委員	<p>わかりました。政策評価は、基本的には基本計画の進捗管理等に使われているという認識で捉えさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>それで問題ないと思います。一方で、昨年度、観光の分野で市民生活実感に動きがありましたが、こうした市民の皆様がどう感じておられるかという調査結果は、今年の11月に公表された観光政策の今後の方向性の基礎資料としても活用されています。そのような大きな方針を固めるときに、重要な意味を持ってきているのではと考えております。</p>

掛谷委員	ありがとうございます。
佐野委員長	<p>ありがとうございます。政策評価は、今お話があったとおりで、内部的な進捗管理の役目と市会に対して今こうなっていますよということを説明する材料であるとともに、本当は、一般市民に対してもこういう形で進めていますという説明責任を果たす役割というものもあるかと思っています。</p> <p>そういう意味で色々な役割を期待されていますが、場合によってはこの切り分けなども必要かもしれません。もちろんその辺りも今後時間があれば議論をしたいと思っています。</p> <p>それでは次の議題3に移りたいと思います。令和元年度政策評価結果及び政策評価の改善状況について事務局の方から説明をお願いします。</p>
事務局 仲筋課長	<p>－事務局より議題3「令和元年度政策評価結果及び政策評価の改善状況」（資料5，6－1，6－2，7）について説明－</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。初めての方は一旦何なのか全体像を理解することが大変かと思いますが、大きく分けると3つの話がありました。</p> <p>最初にお話をいただいた資料5は客観指標に関することですね。この政策評価の仕組みについては、客観的な数値に基づくものと一般の市民アンケートの結果である市民生活実感調査結果の2つを足したものが全体としての評価として出てくるものです。簡単に言うと客観指標の部分，市民アンケートの部分，2つを足した部分ということで3つに分かれるというふうにお考えいただくと，頭の中の整理がつくかと思っています。</p> <p>最初に説明があったのは客観指標で，毎年色々な状況の変化がありますので資料5のとおり客観指標を変えているということです。例えば，分野別計画が変わった，もしくはより適切な指標を設定した等によって指標の変更があり，変更した指標を順番にお話いただきました。</p> <p>市民生活実感調査は，市民に対してアンケートを取り，実際身の回りで市政環境がどうですかということを，直感的に丸を付けてもらうというものです。</p> <p>最後に，資料7の政策の評価や施策の評価ですが，客観的な数値の部分と市民アンケートに基づく実感の部分を足した結果，総合評価としてA B C D Eが増えたあるいは減ったというものです。</p> <p>一個ずつ丁寧に議論ができるといいのですが，時間の関係もありますので一応分けて議論しましょうか。最初に御説明のあった資料5の客観指標に関することについて，一つ一つ細かい中身を検討するというのは</p>

<p>掛谷委員</p>	<p>難しいのですが、何かございましたらお願いします。</p> <p>客観指標のところではなく、資料7の評価結果のところでお話があった部分についてですが、3ページ目で「市民生活の安全」の評価が落ちたという話がありました。政策評価結果を見てみると、高齢者の消費生活相談件数が増えたことが一つの要因になっているのかなと思います。ここについて皆様の御意見を聞かせていただきたいなと思います。</p> <p>相談件数が増えたことについて、悪くなったと一概には言えないのではないのでしょうか。相談しやすくなったという評価をしても良いのかなと思います。確かに相談しやすい状況の中では、できるだけ相談件数が低い方が安全安心な状況ではありますが、その辺りについてどのようにお考えなのかお聞かせいただければと思います。</p>
<p>事務局 仲筋課長</p>	<p>ありがとうございます。政策「市民生活の安全」の評価票を御覧ください。客観指標「高齢者の消費生活相談件数」の「4 数値」の「根拠」という箇所を見ていただきたいのですが、「基本計画の計画期間当初においては、潜在している被害の顕在化を目指して平成24年度まで相談件数の増加を図る」と書いています。そして平成25年度からは被害自体を減らすことで、最終的には過去10年間で最も相談件数の少なかった平成13年度の数値を目指しています。途中までは増やしましょう、被害が顕在化したから減らしましょうということになりますが、この予測がどうだったのかという議論かと思っています。</p> <p>むしろ高齢化も進んできてるので、もっと潜在的な被害を掘り起こす時期は長くとった方がいいのでは、という議論にも繋がるのかなと思います。基本的な方向性や考え方について担当課がもう一度見直すべきではということが、政策評価結果から見えているのかなというのが事務局の見方です。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>おそらく一個ずつ見ていくと色々あるかと思っています。客観指標に関することでも、何か他にお気づきの点であっても、事務局の方から各部局にお話しいただける可能性もあるかと思っています。</p>
<p>白井委員</p>	<p>客観指標総合評価結果のa～eの評価基準について、5段階ですので20%刻みになっているのかと思いますが、そうするとd、e評価が実際には少なくなると思います。それが妥当なのかどうか疑問に思っています。大学などでも60%以上で可という評価であるし、大学によりけりと思いますが、良い成績であればA+やSなどの評点を付けているところもあります。どういった考え方でこうした刻みにしているのか教</p>



<p>佐野委員長</p>	<p>えていただけますでしょうか。</p> <p>おそらく制度創設当初にこういう形で評点を付けるということになったのだらうと思いますが、それがどこまでオフィシャルな規定となっているのか、あるいは内部の申し合わせ的なものなのかはわかりません。いずれにせよ、今まではこのルールで運用してきたので、今ここで切り替えるのも難しいとは思いますが、ただ基本計画も変わるので、それに合わせて少し a b c d e の付け方を工夫するというのはあり得るかと思います。それはまた改めて次回に議論できたらなと思いますが事務局から何かございますか。</p>
<p>事務局 仲筋課長</p>	<p>5段階ですので均等に割って20%ずつだというところが大きいのと、もう一つは、これはあまり知られていないのですが、本市の政策評価制度はc評価であれば政策・施策の目標が達成できているという考え方だということです。ただ、どうしてもa評価を取ることを求められがちなところもあるので、その辺りの考え方を整理しなければならないと思います。</p> <p>一方で、次期基本計画が今回大きく改定されない中で、政策評価制度を大きく変える方がいいのかどうかについても議論が必要かと思えます。つまり、制度の変更によって評価結果が変わってくるようなことがあると、現行の計画に比べて後継の計画の方はうまくいっていないように捉えられる恐れがあるということです。次期の基本計画に合わせて変えていくべきなのか、もしくはその先に総合計画そのものをもう一回見直すような契機が出てくると思えますので、その時に見直すのか、慎重に検討しなければならないと思います。</p> <p>いずれにしても、10%、20%刻みの考え方については確認しますが、おそらく平成15年度の制度設計の際などに議論があったと思えますので、皆さんには次回の委員会等で御説明できると思えます。</p>
<p>佐野委員長</p>	<p>差別化と言ったら良いのでしょうか、同じような評価に固まってしまうと、なかなか実態が見えにくいという部分もあるかと思えますので、大きく変えることも難しいとは思いますが、一方で何か工夫ができればというように思いました。次回の委員会時でも議論できればと思います。そのほか、客観指標についてはよろしいでしょうか。もしあればまた戻りますのでおっしゃってください。</p> <p>次は、市民生活実感調査についてですが、資料7の後ろの方の10ページ以降に具体的な市民生活実感調査の記載があります。市民に調査票を配って回答いただいたアンケートの結果ということになります。資料</p>

	<p>7の10ページ「4 回収状況」のとおり、平成30年度に下がっていた回収率が、今回少し上がったということでした。</p> <p>ただ、調査票の中身を見ると、こういう質問で良いのか、あるいは新たにこういう質問を入れてくれという御意見もあるかと思えます。市民実感のこれまでの変化を見ることが目的ですので、簡単には変えづらいところもありますが、今ここでいくつかの意見が出れば何かの折に取り入れてもらえる可能性もあると思うので、御質問・御意見などあればお願いします。</p>
赤川委員	<p>昨年度の評価委員会での意見を踏まえて調査票などを工夫いただいたことによって、アンケートの回収率が36%に上がったということで、少し役に立ってたかなと考えております。見た目について、ぱっと見たときに昨年度のような事務的な内容ではなく、門川市長のメッセージ性が出ており、非常に良い感じに仕上げていると感じました。</p> <p>インターネットの回答は、やはり難しいんでしょうか。若い世代の方々にとっては、紙よりもインターネットを使った方が親しみを持ってもらえると思いますが、いかがでしょうか。調査データに年齢等も記載があるかと思えますので、年代のばらつきやインターネット等を併用して調査した場合の違いというのを教えていただけますでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>郵送法によりますと、実際の年代別の人口バランスよりも高齢層に寄る傾向にあります。若い人の回答は実際の人口バランスよりも少ないのかなと思えます。</p> <p>一方で、市政全般に対する広聴の観点で広報担当が行っている調査がありますが、今年度からインターネット調査に変えています。京都市の人口構成比に合わせたモニターによる調査ですので、確実に若い人から回答が出てきます。また、ごみ減量の分野でも市民の皆さんに対して意識調査をしていますが、こちらもインターネットモニター調査で行っています。インターネットモニター調査においては、人口バランスに対応して若い人からの意見収集のコントロールができるということになります。</p> <p>一方で、インターネットモニター調査は今過渡期に来ていると思われれます。そもそも社会調査論的には、調査において標本を抽出する場合、モニター調査であればバイアスがかかることになります。例えば、ウェブ環境がある人に限られてしまったり、回答に当たって何らかのインセンティブを与えられることによって回答行動にバイアスがかかる可能性があります。</p>

	<p>もう一つは、市民生活実感調査では100問以上の設問を設定しているので、インターネットモニター調査であっても、結構費用がかかる可能性があります。20問ぐらいであれば割安になりそうですが、そういったこともありますので今過渡期だと思っています。</p> <p>できれば両方の良いところ取りをできたらと思っており、昨年度インターネット調査を試行実施しましたが、調査票は郵送し、回答のみインターネットでできるという手法であり、本当のインターネットモニター調査ではございませんでした。調査票のページ数が増え、逆に面倒な雰囲気になってしまったという部分もございます。</p> <p>京都市に居住している人からの無作為抽出をしようとしても、インターネットと住所は紐づいていないので、無作為抽出ができないということもあります。そこをどう越えていくのかという課題があるかと思しますので、もう少し研究していかなければと思っています。</p>
赤川委員	<p>資料7の11ページで、否定的な回答をした人の割合が高い設問の中で、「まちなかや観光地において自動車による渋滞が減っている」という項目があります。普通に生活していてあまり渋滞は減っているという感じは受けないのですが、この辺りはどういう説明になるのでしょうか。聞き方によって回答が変わってくるかと思えます。京都市内に住んでいて、車で外出しようという気は全く起きないのですが、渋滞に関するどのような質問がこの項目に繋がっているのか、お聞かせいただけますでしょうか。</p>
佐野委員長	<p>「否定的な回答した人の割合が高い設問」とは、「渋滞が減っている」という質問に対して「減っていない」と答えた人が多い設問だということかと思えますが、それで良いでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>そうです。資料6-1の3ページ目Q48になりますが、「まちなかや観光地において自動車による渋滞が減っている」という質問があります。否定的な回答をした人が多い、つまりdやeの割合が多いので、渋滞は減っていないという実感になります。平成29年度から引き続き、45.4%、43.7%、43.5%とあまり変化なく推移しております。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。資料7の最終ページのマトリックスなどはよく使われるもので、市民はどのような政策が大事だと思っているかということと、市民の実感として良いか悪いかということの2軸で見るもので、政策として大事なものでかつ生活実感が低いものが優先されるべき</p>

であるといったことが言われたりします。そういう意味では、マトリックスの右下は、重要な政策だと思われているが市民生活実感が悪く、どちらかというところ、政策重要度がそれほど高くなく市民生活実感も良ければ、あえて何もすることは無いというような見方もできると思います。

こういう形でアンケートを実施していくと、行政区ごとや年齢ごと、男女ごと等のデータがありますので、それ自体の分析も出来ないわけではないのですが、この委員会ではそこまでは踏み込んでいません。ただ、市民生活実感調査をどう生かすかということはありません。

インターネット調査の問題については、本当は紙の郵送法もインターネット調査もそれぞれあるというように、両方あると良いと思います。また、紙の郵送法を基本として、参考にインターネット調査も実施することも考えられないわけではありません。ただお金も掛かりますし、ズレをどう見るかといった話もまた出てきますので難しいところですが、例えば、若い人だけ別でインターネット調査をすることや、学生だけアンケート調査をするということも出来ないわけではありません。それは予算との兼ね合いもありますし、我々の委員会としてどういう資料を集めたいと思うかということになるかだと思います。

今のところはこの市民生活実感調査というのは長い間続けられている調査ですので、基本的には延長してやっていきながら、改善点があれば改善していければとも思っています。

事務局  
仲筋課長

補足ですが、郵送法ですと100万円と少し費用がかかっていますが、インターネットモニター調査だと20万円で作れるなどということであれば検討していかなければいけないですし、または10年、20年先に、高齢化が進み、回答が厳しくなる等の状況を考えながら、持続可能性という観点やICTの発達を考えると、事務局としては継続して検討していけないといけないと考えています。

ただ、130問と設問が多いので、下調べの結果、郵送法よりも費用が高くなる可能性が出てきておりますので、1年2年で結論を出すのではなく、引き続き検討していく必要があると思っています。

佐野委員長

ありがとうございます。市民生活実感調査については、また何かあれば御発言いただければと思います。

最後に、市民生活実感調査で出てきた評価と、資料5で見た客観指標の評価を足したものにより、27の政策分野についてABCDEの評価を行った結果です。

大まかになると言えると施策は少し良くなっており、政策は少し悪くなってい

<p>赤川委員</p>	<p>ます。足し算の仕方がそれぞれですので、こういうズレが起こっており、ある程度やむを得ないところがありますが、少し分かりにくいように思います。</p> <p>それぞれの政策・施策について、昨年度A評価だったものがB評価になったり、B評価だったものがA評価になったりといった理由については、先ほど事務局の方から説明いただきましたが、質問等あれば気軽にお願いします。</p> <p>施策評価結果一覧を見ていますと、目標値を大体達成されてるのかなというように思いますが、施策0302「課題に直面する青少年の総合的支援の推進」は昨年度に続きD評価となっています。指標が厳しいのか、成果が実態としてなかなか出てこないのか、意見を聞かせていただきたいと思います。</p>
<p>事務局 仲筋課長</p>	<p>ありがとうございます。施策0302について、本市としては中京区の青少年支援センターで窓口を持っており、ニートやひきこもり支援を行っています。この施策の客観指標を御覧いただきますと、ページ上部の指標「就職者数」、京都若者サポートステーションの支援により就職した人数において、目標値については国が設定した目標値に準拠していますが、なかなか達成できておりません。例えば、目標数値が140人ですが、最新数値が45人となっております。結果が出ておりません。</p> <p>もう一つ、市民生活実感評価がずっとd評価ということも影響しています。「青少年がニート、不登校などの課題に直面したときに信頼して相談できるところがあり、支援がされている」という質問に対し、市民の皆様の実感はそう思っておられず、d評価という否定的な回答となっています。相談機関の情報が認知されていないということや、就職の成果が数字で出てきていないということになりますが、実際現場の話を聞いてみますと、なかなか成果が出づらいところが実情のようです。一方で、労働環境が改善すると、サポートステーションを通さずに就職していくということもあって、サポートステーションの成果にもならないという二重の状況もあるようです。就職できる人はしていくが、重い課題を持った人が残っていくと、逆に成果がでないという側面もあります。</p> <p>ただ、それに応じて細かく目標値を設定していくことも、長期的な観点からは望ましくないと思われます。いずれにせよ、こういう課題が出てきていることにより、サポートステーションの改善については、これまでからも我々の方から所管課に伝えているところです。</p>

白井委員	<p>この目標値が明らかに達成できない数字だった場合に、それを次の年度は減らして目標設定するということはあまりされないのでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>結論から言いますと、あまりしておりません。一つは、達成出来てないから目標設定を下げたということになってしまうからです。</p> <p>なぜこうした目標値を掲げているかと言いますと、多くが国が設定した目標値や分野別計画において定められている目標値であるからで、例えば資料5で紹介した上下水道局の目標値や、ごみ減量の目標値等は、長期的な観点で設定している目標数値を単純に年度ごとに割り戻したりしたものになります。一方で、京都市のごみ量については、過去から大きく減りましたが、最近は減少幅が小さくなってきているといったこともあるので、目標値は単年度で改正するのではなく、5年10年ぐらいのスパンで変えていくべきと思います。</p> <p>ただおっしゃるように、それであれば、ずっと達成出来ないものも出てくるので、5年もしくは10年ぐらいで分野別計画を見直すタイミングで、特に福祉の計画などでは3年単位で見直しておりますので、そこで調整しているという実情です。</p>
掛谷委員	<p>公約や国が設定した目標値ということではなかなか変えられないのかもしれないのですが、例えばサポートステーションに登録した方に対して、どれだけ就職に結びついたかというような割合で出すことは難しいのでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>無理ではないと思います。実は、それを踏まえて、2つ目の客観指標として「定着率」を設定しています。過去の政策評価委員会でもこの事業について応援いただいております、一昨年度に定着率を指標として追加した方が良いのではという御指摘をいただき、昨年度に指標を加えております。</p> <p>国の基準がこれだから目標値は必ずこう、というよりは、京都市の実情に応じてどうかとかということも含めて就職者数を考えたほうが良いかもしれません。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。このように、意見を言ってみれば意外に実現することもありますので、お気づきの点があればこの機会に言っていただけたらと思います。</p> <p>D評価が続くというのは、何かしら難しさを抱えている可能性があり、市役所だけでは解決できない、あるいは十分なリソースがないなど色々な</p>

伊藤委員	<p>ことが考えられます。ある意味、A評価の政策・施策は、放っておいても良いのかもかもしれませんが。</p> <p>せっかくですので、伊藤さんいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>資料6-1の7ページの自由記載欄では市に望むことなどの意見を書くようですが、どのような意見が多いのでしょうか。</p> <p>観光政策についての御指摘や、それに関連しますが、交通機関の混雑についての御指摘が近年多いように思います。また、空き家問題の御指摘等、京都市に限らず、社会問題化しているものについて、御指摘いただくことも多いのかなと思っております。</p> <p>また、マイナス面の御指摘だけでなく、こういった調査をしていただくのは良いことだという御指摘やこういうことを是非市政に生かしてほしいなどといった御指摘もあります。</p> <p>なお、7ページの自由記載部分の説明にありますように、設問それぞれで、例えば「そう思わない」と回答しているのはどういう理由かなどの記載もいただいております、参考にさせていただいてるところです。</p>
伊藤委員	<p>ありがとうございます。熱心な提案などがあった場合に、なぜ出来ないのか等を書いて返していただけたら、意見を書いた側としては納得するのではないかと思いました。書きっぱなしで何も記載されていないので、書いた側としてはすっきりしないようにも思います。</p>
事務局	<p>御意見が400～600件程度あり、確かに、個別に御意見をお返しするところまで行きついていないのが実情です。我々が実施しているアンケート調査についての御意見は参考にさせていただき、内容によっては対応しております。また、個別の政策分野に関する御意見もありますが、我々だけでは対応出来ませんので、各担当部局に、こういった御意見があったということを示しており、参考にしてもらっています。個別に回答するところまでは至っていませんが、大事な市民意見として各部局において参考にさせていただいております。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。大変良い良い御指摘だと思います。この資料7の令和元年度政策評価結果の中に載せるかどうかは別として、自由記述欄でどういう意見がよく出てきたか、例えば、観光や交通に関わる意見がよく出てきましたというような形で、代表的なものをいくつか載せるとか、あるいは、簡単にまとめたものをいくつか例示で良いので書いてあげた方が良いと思います。</p>

仲筋課長	<p>また、いただいた意見に対して今後こういう形で取り組みたいと思っている、などといったことをどこかに掲載したり、担当課にきちんと意見が伝わっているということをどこかに記載しておいたり、といったこともあるかと思います。</p> <p>その点については、個人が特定されないような形で、主な意見という形でまとめて、毎年度、ホームページで公表させていただいております。</p> <p>一方で、本当に困ってる方や、本質的な問題があるのではないかということ行政としては見ておくべきだと思います。自由記述については、全部目を通して、何らかのメッセージがあるようなものは、特に各局に確認したり、後程御説明します市民意見の申出制度についても必ず各局に伝えて対応したりしておりますので、公表と対応をしっかりと行っているという状況です。なお、御意見を公表しているページにつきましては、後ほど委員の皆様にお送りさせていただきたいと思います。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。せっかくそのように真摯に対応されているのであれば、それが伝わる方が良くと思います。</p>
中井副委員長	<p>資料7の15ページにあるマトリックスですが、全体的に政策重要度が、昨年度よりも今年度にながっているというのは、アンケート調査の回答率が上がったことと関係しているのでしょうか。</p> <p>中期的な傾向として何となく重要度が下がってきているのか、それとも、以前は市政に関心の高い人が市政に何か言いたいという思いで答えていたので政策重要度が何となく高かったのが、今回は回答率が上がってそれほど関心のない人も答えてくれたので、市民の感覚にちょっとずつ近づいてきたと捉えられるのでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>マトリックスについては、毎年度色々な動き方をしますもので、何年度分かで多変量解析しないと見えてこないと思いますが、そこまでは捉えきれないというのが実情です。一方で、昨年度はほぼすべての政策で重要度が上がっています。数年単位でどの程度動いているのかについて、分析する価値はあるかと思っています。</p>
赤川委員	<p>政策重要度というのは、回答数÷有効回答者数で、これが下がってきていると左側に寄る、あまり関心のない方が回答すると左に寄るということでもよろしかったでしょうか。</p>



事務局 仲筋課長	<p>そういうことになります。関心のない方が増えているとは、なかなか言いにくいところではありますが、もちろん標本数が増えるということとの関連性は一般的にはあるのかなというように思います。</p>
赤川委員	<p>回答者数の母集団が増えたために、有効回答者数は今回 1,454 人取れていて、分子の回答数というのはどのように取ったら良いのでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>それぞれの政策について、「重要である」、「どちらかというと重要である」という肯定的な回答をした人数がそれにあたります。</p>
事務局	<p>原因分析までは出来ていませんが、回収率が低かった昨年度は、今年度とは逆に政策重要度が全体的に右側に動いたという傾向がありました。何か回収率との関連性があるのかもしれませんが、まだそこまで踏み込んだ分析は出来ていないのが現状です。</p>
佐野委員長	<p>政策重要度について、どういう人たちが「重要である」と回答し、どういう人たちが「重要でない」と回答しているかは、もしかしたら属性や住居地で何か傾向が出るかもしれません。</p> <p>例えば、昨年度と比べてこういった回答者が増えていて、かつ、その人たちが「重要でない」と回答しているということかもしれないし、あるいはそうではなくて、全体的に重要度が下がっているのかもしれない。</p> <p>それを見たからといって何が分かるかといったことはないかもしれませんが、何か面白いことが分かるかもしれません。いかがでしょうか。</p>
白井委員	<p>回収率の高さもそうですが、アンケートにしても熱心な人しか答えないといいことがあります。本当に拾わないといけないのは、京都市は何もしてくれないと諦めてしまっている人や、本当に忙しくてこういうアンケートなどに手を出せない人ではないかと思います。</p> <p>市民公募委員にしても、平日のこの時間に来られる人は結構限られていると思いますし、声の強い人の意見ばかりが反映されてしまうことになると思いますのでなかなか難しいと思うのですが、そういう人の意見を上手く拾ったり、目を付けたり出来たらと思います。</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。各局で政策分野ごとにされている努力もあると思いますし、この委員会として出来ることがあれば議論していけたらと思います。</p> <p>それでは、議題 4「次期基本計画における政策評価の方針」について事務局から説明をお願いします。</p>

事務局 仲筋課長	<p>－事務局より議題4「次期基本計画における政策評価の方針」について説明－</p>
佐野委員長	<p>ありがとうございます。今年度より2回委員会を開催するというところで、皆さんには御負担をおかけしますが、御協力よろしくお願ひします。次回も議論できると思いますが、今の時点で意見がございましたらお願ひします。いくつかの論点が出たかと思ひます。</p> <p>例えば客観指標は分野別計画などで決まるものもあると思ひます。そのうえで、この委員会として、それではそれをそのまま使ひましょ、あるいは少し変えましょといったことは、どれぐらいすることが出来るのでしょか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>客観指標は約400あり、すべてをこの委員会で議論することは困難ですが、客観指標の設定に当たって「客観指標の設定マニュアル」というものを用ひていますので、このマニュアルの中身について、こういう方針で良いのかということをお願ひいたたくことになりましょ。</p> <p>また、各政策分野の分野別計画も同時並行で策定しており、再来年の3月まで客観指標が出てこない可能性がありましょ。来年度の評価委員会では、例えば約400ある指標のうち御提示できるものが200か300になるかもしれないませんが、その辺りを見ながら、余りにも指標設定の傾向として良くないのではないかと等、大きな方向性を御議論いたたくことになると思ひます。</p> <p>一方で、市民生活実感調査のアンケート項目は130項目全て御覧いたたくながら、分かりやすい・分かりにくいというのも見ていたたくことになりましょので、比較的御負担をお掛けすることになるかと思ひます。</p>
佐野委員長	<p>130項目の設問というのは、何かに関連してその設問数なのでしょうか。</p>
事務局 仲筋課長	<p>参考に席上に配布してあります現行の京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン」の39ページを御覧いたたくましょと、政策分野ごとに「みんなでめざす10年後の姿」というものがありましょ。10年後こういう姿を目指ましょということになっていましょですが、現状はどうですかということをお願ひし、市民の実感を聞くことにしてあります。</p> <p>アンケート化していましょので、分かりにくいという御意見はごもつとも、分かりやすくしつこの「10年後の姿」とも乖離しないというのものはどういふ設問なのか、という御議論をしていたたくことになりましょ。</p>

佐野委員長	京プランの改定によって「10年後の姿」が今回新しくなるので、それを見ながら設問を考えるとということでしょうか。
事務局 仲筋課長	そのとおりです。もちろん事務局で案は考えて提示いたします。
佐野委員長	<p>具体的なイメージが湧いたかと思います。差し当たりはそのようなことで、また具体的な中身については、次回改めてお話し出来ればと思います。</p> <p>なお、評価結果の活かし方や情報の整理の仕方、市民生活実感の回収率の向上、各種基本的な指標の整理の仕方について、個別の委員の先生方に事務局から御相談に行きたいと考えており、大変恐縮ですが、掛谷先生と本日お休みですが深川先生に個別に御相談申し上げたいと思います。掛谷先生よろしいでしょうか。</p>
掛谷委員	承知いたしました。
佐野委員長	<p>深川先生は事務局から連絡をお願いいたします。</p> <p>それでは、議題5の「市民意見の受付状況」に移ります。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 仲筋課長	－事務局より議題5「市民意見の受付状況」について説明－
佐野委員長	ありがとうございます。それでは、最後の議題6「その他」ですが、今回初めての方もおられますので、全体を通して御意見や御質問等はありませんでしょうか。せっかくですので、皆さんから一言ずついただきましょうか。中井先生からお願いします。
中井副委員長	初めての委員会でしたが、事務事業評価の時もそうでしたが、京都市さんは膨大な仕事をされているので、それを市民生活実感と客観指標とどう組み合わせるのかはとても難しいと思いました。非常によく考えられていると思いますし、よく考えられているからこそ、どこから手を付けたらいいのかなかなか難しいところかと思えます。ただ、アンケートの手法など、おそらくこのままでは色々な問題が出てくると思いますし、市民の関心が少しずつ減っているということが何らかの長期的な傾向なのか、その辺は研究者としても興味があるところで、勉強しながら少しでも貢献出来るようにと考えています。

赤川委員	<p>前回の委員会までは次々と意見が言いやすかったのですが、今回はマイクを使わせていただき、自由な発言がしにくいようにも感じました。マイクで話しておられる時は口を挟んではいけないようにもなり、そこまで気を遣う必要がなかったかもしれませんが、マイク慣れしていない自分に気づきました。</p>
伊藤委員	<p>私が見ても分からない評価票ということは、市民が見ても分からないということだと思いますので、私に分かりやすくなるようにしていきたいなと思います。</p>
掛谷委員	<p>今日は初めてで、色々質問をさせていただきましたが、本当にざっくばらんな委員会だと思いました。申し上げた意見もすくい上げていただけて、前向きに頑張っていけそうな気がしました。今後ともどうぞよろしくお願いします。</p>
白井委員	<p>資料も膨大ですし、色々なことをお話していただくので情報処理が追いついていないところです。やればやるほど面白みが分かってくるのかなと思いますので、家に帰ってからもアンケート結果等を見てみたいと思います。</p>
佐野委員長	<p>私も不慣れな司会で、時間進行管理をちゃんとしなければいけなかったのですが、最初ですのでこうしてじっくり話をするのも良かったかと思えます。今後どうしていくかは悩ましい部分もありますが、皆さんの御意見を承りつつ、みんなで話をしていければと思います。</p> <p>それでは本日の議題としてはこれで最後になるようです。司会進行は事務局にお返しします。</p>
事務局 仲筋課長	<p>ありがとうございます。最後に平野の方から一言御挨拶をさせていただきます。</p>
事務局 平野部長	<p>皆様、本日は大変長時間にわたり御議論いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>本日は御専門の見地から、あるいは市民の目線からの様々な御質問、御指摘をいただきました。そういったことをお伺いする中で、今後の委員会においても、皆様から政策評価制度に関する有意義な御意見をいただけるであろうことに、我々も大変心強い思いをさせていただいております。</p> <p>委員会につきましては、今年度さらに1回、来年度2回ということで皆様には大変御負担をお掛けする形になりますが、何卒京都市の政策評価が</p>

事務局 仲筋課長	<p>より良いものになりますよう、御協力の程お願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。</p> <p>次回の委員会については、また日程調整等をさせていただきます。本日は以上でございます。どうもありがとうございました。</p>
-------------	---